

在京石鳥谷町人会だより

(題字 旧石鳥谷町長 高橋 公男 氏)

在京石鳥谷町人会だより

連絡所

在京花巻ふるさと会事務所内
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-4-8 東京中央ビル 603 号室

TEL 03-6256-8082

FAX 03-6526-8083

事務局 〒187-0031 東京都小平市小川東町 1817-39 大竹雅夫方

TEL : FAX 042-332-3025

ごあいさつ



在京石鳥谷町人会
会長 高橋 弘美

会員の皆さま、こんにちは。高橋弘美でございます。

皆様におかれましては、お健やかに過ごされたこととお慶び申し上げます。

また在京石鳥谷町人会に寄せられる皆様からのご支援、ご協力に対しまして心より御礼申し上げます。

さて今年の夏も当会を協賛して頂いている企業の皆様への年一度のご挨拶にふるさと石鳥谷に行つて参りました。ちょっと湿度が高めの夏の空気の中、青々とした田んぼを眺めながら八重畑の果樹生産地に近づきますと、まだ若いがしかし順調に生育中のラ・フランスやリンゴの果樹が立ち並び爽やかな風景が見えて参ります。いつも思うことは、どうか台風がこの地に近づかないように、どうか収穫が終わるまで「こつ

ちやくるなよー！」という思いで一杯になります。

この招かざる客「台風」ですが、今年はいつとも違う状況が二つあるところです。一つはその発生数ですが、6月の段階で既に9号まで発生しました。1971年以来の44年ぶりのことです。8月の段階では16号まで発生している内上陸は2個なので、これもここ10年では最多となります。

二つ目は1月から8月まで毎月発生していることで、これは50年ぶりの珍しいことなのだそうですが、でもそういう珍記録はさて置いて、台風の年間平均発生数は25・6個で、年間平均上陸数は2・7個です。ということは今年多く発生していることが、毎月発生しているようが、統計的にはこれからまだまだ発生するし、上陸するおそれもあるということなので、ふるさと農家の皆さんや関係者の皆さんのご心配や気苦労はいかばかりかと思いつつご挨拶回りをして参りました。

毎年の総会・親睦交流会のお土産にリンゴを生産して頂いている伊藤果樹園さんからお話を伺いました。今年春先の天候が良く、果樹の開花

が例年より早かった関係で夏場の多少の天候不順は吸収可能であり、今のところ作柄は良好とのことでした。是非立派な「リン」を育てて頂いて、会員の皆さんにお届けしたいと思っております。また他の多くの協賛企業の皆様からも大変ありがたいご厚意を十分に頂くことになりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて今年の在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会は11月1日(日)開催であります。今年の郷土芸能は新堀地区の「新堀ふるさとさんさ会」の皆さんからの演舞を予定しております。毎年毎年ふるさとから駆けつけて下さる方々に心から感謝しつつ、皆さんと一緒に楽しみたいと思っております。引き続き役員一同、今後も頑張つて参りますので、どうか会員の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願い致します。



27年度 田んぼアート

被災地ツアーに参加して

加藤 有子

花巻市湯口出身

去る5月24日～26日花巻地区の幹事の企画のもと三陸方面(田老町、大槌町、釜石)に参りました。

バス組・新幹線に分かれて現地で合流するというユニークな発想の元行われました。

私はバス組でしたので内容はバス編に集中する事をお許し下さい。

初日、東京駅8時半出発、車中自己紹介から始まり一路花巻へ、殆ど予定通りに花巻着。リニューアルされた宮沢賢治記念館、高村光太郎記念館と観光。新幹線組とはここで合流。

私はかつて花巻混声合唱団に所属し、賢治祭には「春と修羅」を歌った事、又、高村光太郎さんとは面識があり、絵や作文を書く時の心構えを教えてくださいました。その夜のお宿はこれ又幼い頃から馴染みの志戸平温泉、二組合流のもと花巻副市長をお迎えし宴会が賑やかに行われました。

二日目二台のバスにて龍泉洞経由で三陸へ。岩洞湖、早坂高原、熊の

鼻展望台、浄土ヶ浜は抜けるような青空が絵をみているようで、とても印象的でした。

被害の大きかった田老町のまだまだ復興へは程遠い現状を目の当たりに見ながら、切なさ、怒りを抑えながらのガイドさんの説明を心痛む思いで伺いました。

その夜の宿は大槌の浪板海岸の「花ホテルはまぎく」でした。同席頂いたお二人の復興に挑む真摯な姿勢は忘れる事が出来ません。

大槌に骨を埋める覚悟という、千葉県出身の若き「吉野和也さん」、又、火を背に生命がけて撮った「臺隆明さん」の生々しい被災地の様子がスライドに写し出され、息をのみ、身を乗り出して見入りました。

又、音楽で人々に元気をという趣旨で音楽ホールの建設の企画を知り、瀬川会長、理事さん達の発案で在京花巻人会一同として復興支援への募金が出来た事参加者の一人として大変嬉しく思いました。

花巻のコーラスの方々も駆けつけて下さり、心の交流が出来「ふるさと」があるという幸せを又又通感致しました。

三日目、大槌町の津波で無慚に破

壊された市役所前で献花をし、ご冥福と一日も早い復興を祈りました。最後は百年に三度も津波に襲われた釜石へ。鎮魂の鐘を安らかにの思いをこめつかせていただきました。

シープラザサンフィッシュでは、お金を落とすのも復興支援とばかり新鮮な産物を買いました。

私も執念のホヤの塩辛をゲット致しました。その場で切ってもらい食べたホヤの味は忘れられません。海は牙をむく事もあるが海の恩恵で生かしていただいていると、あれ程の被害にあっても自然への畏敬の念を失わぬ、現地の人々の深い思いに心が洗われ教えられるものがありました。今年も色々な感動を味わいそれぞれ帰路につきました。

幹事さん達のまごころと緻密な計画のもと事故もなく無事の旅が出来ました事、感謝申し上げます。来年度は東和町友会が幹事をやってくださるそうです。体調を整え、又是非参加したいと思います。



瀬川会長よりご挨拶



運転手の豊泉さんに
各地の観光案内を頂いた

絶景の浄土ヶ浜

復興支援ツアーに参加して

仁井谷 公子

石鳥谷大興寺出身

思いがけず、復興支援ツアーのお誘いを頂いた。知らない人との旅行は経験がなく、いつもならすぐにお断りする。躊躇したが高校の先輩のお誘いということもあり、なぜか今回は参加してみようと思いたった。幹事さん達の手厚い御もてなしを受けながら、久しぶりに見る故郷の美しさに感動し、郷土愛に溢れる人達との二泊三日、私の不安は杞憂だった。

初日は花巻市周辺をゆっくり見学し、志戸平温泉での宿泊。ホテルで寛いで部屋の窓から隣の施設を見て驚いた。そこは20年前父が亡くなった病院だった。父を偲び暫く心の中で手を合わせた。

二日目は、4年前連日テレビを見ながら涙を流した、悲惨な映像の場所を訪れた。想像以上に広い範囲に津波の押し寄せた跡を目の当たりにし、息を飲んだ。未曾有の大惨事が史実となり、後世に言い伝える証人の一人になったのだと思うと、身が

引き締まる思いがした。その大地震で、いわき市から東京に娘一家4人が犬、ウサギと共にほうほうの体で避難してきた。一か月後、状況が落ち着くのを待たず生活用品を車一杯に積んで、いわき市に帰って行った。東北人は負けず、めげず、強い。あんな大惨事があった事などを感じさせない美しい景色を見て思い出したある夏、夫が三陸に行ってみたくて言い出した。東京生まれの東京育ちの夫は、結婚当初私をカッペちゃんと呼んだ。石鳥谷の田舎ぶりからそう呼んだのだろう。大学病院でがん患者さんに寄り添う医師の為なかなか休暇を取れない夫に無理を言い、学会の帰りに何度か石鳥谷に寄って貰った。東京の蒸し暑い梅雨と違い、石鳥谷の梅雨の晴れ間の青葉風の心地良さを感じて貰い、真夏の夜には、涼しくなった田んぼから聞こえてくる力エルの声を聴きながら、石鳥谷の水で入れたいつものウォッカを飲んで貰った。いつしか夫は私をカッペと呼ぶなくなった。そんな夫が三陸に行ってみたくて言ったのだ。いつもなら車で行くのにその時は釜石線に乗った。小さな電車でのんびり進むと突然現れる美しい三陸の海。

夫と私は言葉もなく只電車に揺られていた。国内外の学会、講演に何度も同行させて貰ったが、あんな風に夫とゆっくり出来たのは本当に幸せな一時だった。一人でお店に入り食事をすることすら出来なかった私を叱咤し、激励し、見守ってくれた夫は、大地震の直前に亡くなった。

この復興支援ツアーは、私の、夫からの自立旅行ともなった。



急ピッチで進む各地での復興作業



第 41 回
岩手県人の集いに参加して

川村 三郎

好地出身

流石に、在京県人会の集まりだと感じました。

数えてはいませんが、資料によると 12 席のテーブルが 35 脚で来賓、会員合わせて約 360 名十スタッフという規模でした。

我々は、在京花巻ふるさと会として 18 名参加しましたが、参加コミュ

ニティーの中で一番参加人数が多かった様でした。この中でも在京石鳥谷町人会は 5 名も参加し、賑やかなテーブルになりました。

この集いに参加して感じたことは、岩手県全体の行事や話題が中心になっていたので、石鳥谷町人会の中で活動している私には、ピントがずれて来年の「希望郷岩手国体」への協力要請も、迫力に欠けたものを感じました。

この集いで迫力に満ち溢れていて感動したのが、アトラクションで川崎市の「和太鼓祭音」というグループが、岩手県岩手町小本に伝わる郷土芸能で、天保時代を発端とする勇壮活発な神楽舞『中野七頭舞』という演舞でした。

総勢お囃子と踊り手の 16 名で、肅々と舞うのではなく、田植踊りのように賑やかに、且つ勇壮に演じ、見ている人々を楽しくさせる演舞でした。

やはり東北地方、岩手県は郷土芸能の宝庫だなと感じました。

石鳥谷でも知らずに眠っている芸能があるのではないか、出来るだけ探して在京石鳥谷町人会の会員の方々に、感動を与えられるよう、頑張りたいと思いました。



勇壮活発な『中野七頭舞』





達増知事を囲んで



石鳥谷町人会の出席メンバー

日本橋・神田川クルーズに
参加して

齊藤 美智
東和町友会

6月14日(日)石鳥谷町人会主催の「日本橋・神田川90分クルーズ」に参加させて頂きました。

当日は、朝から弱い雨が降っていましたが、家を出る頃は雨が上がり爽やかな風が頬に心地良く感じられました。日本橋三越前のライオン像の前10時集合でしたが、私は初めてだったので着くまでドキドキしていましたが、知っている顔がチラホラ見えた時は、ホッとしました。男性7名、女性8名計15名の参加でした。全員が無事に揃ったところで、担当の佐藤さんの案内で船着き場へ向かいました。出発まで少し時間があるという事で各自、日本橋欄干にあります獅子と麒麟の像や、日本橋魚市場発祥地の記念碑や、(佐藤栄作元首相揮毫)の道路元標等を見学して、乗船を待ちました。私は作家・東野圭吾の作品で「麒麟の翼」に登場する麒麟の像を前から見たかったので、とても感動しました。

その後11時にいよいよ乗船となりました。船の上では案内の方より、日本橋の歩み、歴史、時代の移り変わり等、事細かに説明を聞きながら、又左右の建物を見学しながら、熱心に水運と同時に栄えてた頃に思いを馳せながら聞きました。都会の中央を流れる日本橋川・神田川グループは、日常からとは逆のスタイルからみる町並み、高層ビル等を見て不思議な感覚にとられました。そして橋の数の多さにはビックリさせられながら、その一つ一つの橋にまつわる歴史等も説明を聞きました。あまり見る事のない川から見た都会の再発見でした。又、船の上から清洲橋越しに眺める東京スカイツリーも絶景でした。そしてその後ランチタイム「イチノイチノイチ」で飲んだビールの美味しさは格別でした。食事の「真鯛の土鍋めし膳」もすごく美味しくて大満足でした。食後は日本橋をいろいろ散策して、最後に福徳神社にて各々の思いを祈って、一日の無事感謝して解散となりました。今回の企画に参加して、今まで知らなかった日本橋を改めて知る事が出来ました。とても有意義で楽しい一日を過ごす事が出来まし

た。そして、日本橋に関するたくさん資料を準備して下さいまして本当に有難うございました。



船上から眺める都心の景色に感激





神田川クルーズならではのベストショット

祝 三十回 花巻人会

柳原 政義
八幡出身

7月5日(日)、東京は文京区湯島にある東京ガーデンパレスホテルにて「第三十回在京花巻人のつどい」が開催され、我が石鳥谷町人会は高橋会長を筆頭に総勢11人出席して三十周年をお祝いしました。

宴は上田花巻市長のご挨拶とお祝いから始まり、ダンスコ ダンスコのリズムで鍋倉の鹿踊りが舞台狭しと舞い出席者の郷愁を誘い、更に宮沢賢治の詩「きみにならびて野にたてば」などに曲を作った音楽家、及川慎先生による直接の歌唱指導で出席者全員、声を出して賢治の心に入りました。最高潮は、賢治が花巻農学校の生徒達に教え歌い継がれている「日は君臨し・・・」で始まる精神歌を全員で大合唱し崇高な美しい世界に浸る楽しいひと時を過ごしました。 流石 花巻人会 !



鍋倉の鹿踊り



上田花巻市長を囲んで

以前より、娘のムコドノが「子どもたちが大きくなったら、お父さんの実家の岩手に行ってみたいですね・・・」と言っていたが、今年孫長男が小学校2年生になり、孫長女(保育園年長組)・次男(同・年少組)・三男(1歳、家内と八人で帰省した。これまで帰省の時には、東北道のPEで仮眠したり、運転を交代しながら走行してきたが、今回はムコドノが往復一人でハンドルを握ってく

賢治記念館見学
懐かしの石鳥谷まつり

伊藤 精司
新堀出身



れた。日中車での移動は孫たちには長旅となつて草臥れてしまうので、11日の夜に群馬を出発し、翌朝無事に盛岡―Cを降りて姉宅を訪問。

義兄は宮古出身なので、帰省の折は何時も新鮮な海の幸を取り寄せて頂いて一杯ご馳走になっていたが、今回は大人数での訪問ということでお茶にて休息後小岩井農場へ。途中でファミリールランドに寄り、孫たちは乗り物や遊具、大小様々な池の水辺で楽しんだ。小岩井農場の広大な駐車場はお盆前ということで、想像を絶する物凄い車の数だった。

小学校2年生時小岩井農場への遠足で、乳牛の地面に着くような巨大な乳房からの搾乳作業がとても印象に残っていたので、是非孫たちにも見せてあげたいと思っていたが、ゲート付近に到着したあたりから雲行きが一変してきたので、残念乍ら入場は諦めてお土産店での買い物と濃厚なソフトクリームを味わって農場を後にした。

東北道で一路花巻へ向かい賢治館近くの姉宅を訪問。姉の自慢の漬物と数々の料理を頂いてから宮沢賢治記念館へ。賢治記念館は昭和57年開館以来、県内外より約69.5万人

の来場者を迎えているとのこと。開館後32年が経過したので、賢治の研究成果や作品・表現に触れ、向き合い、体感してもらえらる様にとの監修方針に基づいて、今春4月24日リニューアルオープンされた。

夏休み中ということもあってか駐車場は満車状態。記念館入口前右側には賢治の童話「猫の事務所」に登場する三毛猫とトラ猫が設置されていて、殆どの方々は椅子に座ってカメラに収めていた。

賢治記念館のリニューアル監修方針の一つに、映像表現に留意し、表現を平易にして視覚化を図り体感型参加型の新しい技術を導入する。とあり館内展示室中央には大型モニター(縦15m×横4m)が新設されて「宙(そら)」を、他の四大モニター(縦15m×2m)では「科学・芸術・宗教・農」のジャンルを紹介。迫力ある大型モニター・映像に度肝を抜かれた感じだった。常設モニターの「賢治のフィールド」では「時代・地域・家族・知人」等周辺を紹介。多目的ルームではモニター一台でアニメ上映を。特別展示室には童話「銀河鉄道の夜」の解説アニメで一台等々、賢治のそれぞれの心象世界、

作品世界を紹介されていた(リニューアル記念式典資料より部分抜粋、及び牛崎副館長より情報提供)。

孫たちが通っている保育園は、国語教育重視をしており、園恒例の敬老行事や生活発表会の際には、年長組による賢治の「雨ニモマケズ風ニモマケズ・・・」の詩を全員で暗唱発表してくれている。

展示室入口付近一角のケースの中に賢治の手帳が展示されていたので、孫たちに「これがケンジの書いた本物の雨ニモマケズ・・・だよ」と説明したが、意味合い的に理解出来たかどうか・・・。

賢治サロン右側奥にはPCモニターが8台設置されていて満席。孫たちも暫く真剣に画面に見入っていた。リニューアル監修方針に基づいてリフレッシュされた賢治記念館。お盆期間中8月8日(土)〜8月17日(月)間の来館者は計1万0765人とのことでした。子どもから大人まで大勢の人たちに親しまれている賢治人間像の世界へ是非足を運んでみてください。

記念館を後にして新堀の実家へ移動。家族の皆元気なところを確認方娘家族を紹介。懐かしい実家の味の

夕食を頂いてから石鳥谷の花火会場へ向かった。

会場受付の方に石鳥谷町人会の席を案内して頂いた。既に高橋会長はじめ大竹副会長、川村副会長、山口副会長夫妻、菊池正弘幹事、菊池勝江幹事、細川久榮(石鳥谷町人会の歌朋友作曲家・フロンコ夫妻、他)ご家族の方ともども懇親を深めておられた。また新堀地区コミュニティ会議高橋公男会長、同佐々木久雄事務局長も見えておられたので、「11月1日の町人会では新堀さんさ会の皆さんに郷土芸能を披露して頂くことになっていきますので宜しくお願いします。」と挨拶させて頂いた。我々も隣の特設席へ。程なくして上田花巻市長もご来席を頂き、暫くの間石鳥谷町人会席で会員の皆さん方と歓談しておられた。やがてアナウンサーの案内でカウントダウンと共に音楽が流れる中、夢まつり花火大会が始まり、連続に打ち上げられる大輪の花火、枝垂れ花火、スターマイン、ナイアガラ等の迫力ある夜空の競演に彩とりられ暫く見入った。



「猫の事務所」に登場する
三毛猫とトラ猫と一緒に

幼少の頃の石鳥谷の花火大会は、「次は〇〇店提供の・・・」とアナウンスされて、単発の打ち上げが多かったように記憶しているが、今日では大正橋公園河川敷の観覧会場も整備され、年に一度の大イベント夢まつりという事で、会場は数多くのテントと人また人と想像を絶する大勢の観客で埋め尽くされていた。

初めて孫たちと一緒に帰省し、7年ぶりに郷里の花火大会を観られてとても良い思い出になった。

車での慌しい移動であったが孫たちには「爺のいなか」はどのようように心に残ったか。

何年後かに又孫たちを案内出来ることを夢みて会場を後にした。



花巻商工会議所 石鳥谷支所より提供



森の中のビアガーデン
近隣ふるさと会に参加して

山口 郁子

新堀出身

9月12日(土)、東京プリンスホテルの前庭から見上げた空は2日前

の台風の爪あとがうそのように青く広がっていました。

この日は在京花巻人会主催の近隣ふるさと会が東京プリンスホテルのビアレストラン・ガーデンアイランドで行われ、主人と二人で出かけました。とんがり帽子のような白いテント張りのビアガーデンは開放的な雰囲気、ときおり周りの木々から涼しい風が吹きぬけていました。

近隣8団体から参加者53名。花巻人会の高橋良光さんが司会進行役です。会長の瀬川紘一さんの挨拶のあと、我が石鳥谷の会長高橋弘美さんが乾杯の音頭。そして8月に亡くなられた花巻人会の役員の方にみんなで献杯して黙祷を捧げました。

その後、飲み放題のBBQがスタートしました。9つのテーブルには大きな鉄板が置かれ、大皿には豚肉、牛肉、ソーセージ、茄子、とうもろこし、パプリカ、エリンギが盛られています。この日は残暑のうえに鉄板の前は熱く、お隣に座られた東和の小原さんと親ドリのようにせつせと肉を焼いては皆さんのお皿に配り、最後は山盛りの焼きそばに興奮してますます汗をかきました。

二次会として東京プリンスホテル

のカラオケ、または東京タワー散策の案内がありました。なかには隣接する徳川家ゆかりの増上寺に行かれた方もいました。私と主人はカラオケを選択。ホテル内のカラオケはどんな所かしらとちよっぴり期待して行ってみると、シャンテリアがあるわけでもなく普通のカラオケルームでした。20名が参加。照明を落としたり、リクエスト曲を書いたりと言った皆さん手慣れた様子です。

からだ全体で歌う人、ステップを踏みながら歌う人、朗々と歌う人、あらあらチークダンスも始まりました。歌がうまいのはもちろんですが、私が一番感心したのは皆さんが岩手の歌をよく知っておられること。どこで歌っているのでしょうか。「そんな街北上」「どんとこい岩手」「北へ北へ」等々、岩手の歌パレードでした。

2時間のBBQと2時間のカラオケ。食べて飲んで喋って歌って、ほどよい充実感と疲労感が残りしました。帰りはホテルのラウンジでひと休み。美味しいケーキセットを食べ、今日知り合えたみんなの顔を思い出しながらホテルをあとにしました。

もし東京に出て来ることなく岩手にいたら、ふるさとの方とこんな風に

に一堂に会することもなかったかもしれせん。機会をつくって頂いた在京花巻人会の皆さまに感謝いたします。



ピアガーデン会場にて

石鳥谷町人会メンバー



大竹副会長 高橋会長



花巻人会瀬川会長(右側)と

郷土の偉人シリーズ 第一回
武蔵の国に故郷の
先人の跡を訪ねて

「みちのくの電信王」谷村貞治が

新たな志をかきたてた地―所沢―

川村 政義

新堀出身

日本機械学会は平成19年6月、創立110周年記念事業の一環として、歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に日本国内の機械技術面で歴史的意義のある「機械遺産」を認定していくことを決定している。認定制度が発足して二年目の同20年、谷村株式会社新興製作所製の「機械式通信機器群」が「通信方式が電子式に変わる以前、わが国の戦後復興期の情報通信を支えた貴重な機器資料」として同遺産(第29号)に認定している。

その後波乱万丈の人生をおくることになるが、本稿では字数の関係もあるので、彼が上京後、通信機器の最先端の開発を目指すきっかけとなった出来事にフォーカスをあてて紹介することにした。

貞治は生涯、自伝的著書を2冊公開している。「白萩荘随談」昭和33年岩手放送株式会社と「この道ひとすじに運・鈍・根の人生」昭和41年大和書房である。この二冊を読んで感ずることは、本当は医師を生涯の職業にしたかったのでは、という気がする。石鳥谷尋常高等小学校を卒業したあと、知人の紹介で盛岡の季村医院に奉公している。当時の医師制度によれば、特定の医学教育機関を卒業せずとも「医師開業試験」に合格さえすれば医師になれたのである。因みに千円札の肖像画になっている野口英世はこの試験に合格して医師免許を取得している。

貞治は大手町にある中央通信局電気工夫見習いとして職を得た後、東京歯科医学校後の東京歯科大学、明治薬学校後の明治薬科大学のいずれも夜間部に学んでいる。著書ではなぜこれらの学校に通ったのか説明はないが、「医師開業試験」受験の

ためであったと推測できる。ところが、制度が変わり医師資格の取得は官立、公立、私立の専門学校を卒業することが前提となり、「医術開業試験」制度は廃止となったのである。これによって医師への道を断念したと思われる。

その後、彼にとって新たな志をたてる契機となった衝撃的な体験をすることになる。

大正6年9月30日から翌10月1日にかけて東京周辺地域は暴風雨が吹き荒れ、大きな被害をもたらした。

貞治は三等通信工夫に昇進し、勤務は埼玉県を担当していた。このときのことを著書のなかで「今は台風と書いていますが、暴風雨が一荒れして一夜明けた秋晴れの日、埼玉県担当課に属する私が所沢の断線修理に急派されたことがありました」と述べている。この頃の所沢の町は、明治44年4月に日本で最初の飛行場が開設され、数日後には飛行場に徳川好敏大尉がアンリ・ファルマン機を操縦し日本初の飛行に成功するなど、江戸時代から続く織物の町は飛行機の町へと大きく変貌していく時期であった。

「電信柱の天辺で修理作業中にフ

ロペラとエンジンの音を轟かせながら単葉の一機が私の頭上高く飛んできました。私は片手をかざしてジッとその行方を追いました・・・感嘆のあまり高鳴る自分の動悸が聞こえるほどでした・・・やあ、えらいものが発明されたものだ。人間の力というものは計り知れない。これから技術はどこまで進むだろうか・・・自分も何か人を驚かすようなものを作りたい。自分だって成せば成る。いや成し遂げよう・・・独りつぶやし独り興奮した。」

この時の体験が「一生かかっても電信と取り組んで何か人を驚かすようなことをなし遂げよう」と決意させる動機になったのではなからうか。ただ、将来の目標は明確になったものの学力不足は如何ともしがたく、本人も自覚したに違いない。自今、必要とされる知識を吸収するべく電機学校後の東京電機大学、正則英語学校後の正則高校に通うことになる。これが彼にとって「最先端の通信機器の開発」に向けた第一歩となった。

いま所沢は「航空発祥の地」と呼ばれ、飛行場の跡地は、幾多の変遷の後、「所沢航空記念公園」として整

備され、安らぎの場として多くの市民に愛されている。園内には日本初の滑走路跡、日本の航空技術の発展に貢献したフォル大佐の胸像、少年飛行兵の像、木村・徳田両中尉記念塔などの記念碑、所沢航空発祥記念館など飛行機に関わるものが多くある。街中の通りも飛行機に因んで「プロペ通り」、「ファルマン通り」、「飛行機新道」などと命名されている。貞治が所沢上空で「単葉の一機」を目撃してから再来年で百年になる。所沢の「町場と飛行場見学コース」でも散策しながら貞治の行跡に思いをはせるのも一興と思われる。



公園内に設置されている記念碑



広大な滑走路跡と所沢航空発祥記念館

主な行事予定

- ◎ 在京石鳥谷町人会
総会・親睦交流会
11月1日(日) 上野精養軒
- ◎ 岩手県人連合会
新年賀詞交換会 1月末～2月頃
- ◎ お花見クルーズ 3月末～4月頃
問い合わせ・佐藤 忠男
(090)3240-5821